

【下寺町活性化プロジェクト】

花祭り

夕霧太夫行列

金臺寺 ↓ 浄國寺



森川商店謹呈

香り袋 夕霧

古典的な香りと
現代的な華やかさが
巧みに調和された
気品ある香りです

700円

当日限定
朱印
(切紙にて)

300円

2021年 4月4日(日)

10時より 金臺寺にて開式



お問い合わせ

浄國寺 TEL (06) 6771-1814



【なにわ人形芝居フェスティバル】「花祭り」夕霧太夫行列

夕霧太夫行列 実行委員会構成員：浄國寺／金臺寺／NPO法人まち・すまいづくり

夕霧太夫は、元禄年間で800人以上いたとされる、大坂の花街・新町の遊女の中でも、最も美しかったとされ、天王寺区下寺町の浄國寺に墓があります。日本三太夫の一人で絶世の美女と伝えられ、1678年に27歳の若さで没した時には、「大坂中がその死を惜しんだ」といわれております。

その夕霧太夫の名前を冠した「花祭り」夕霧太夫行列は、大阪の歴史文化で下寺町を活性化することを目的としています。桜の季節の4月の第1日曜日に、夕霧太夫、新造(しんぞう)、禿(かむろ)を含む大勢の行列が下寺町を行進。

一般参加として募集している稚児さん向けの人形劇や、見物しただけの皆さまが楽しめるお茶席も設けます。

没後もその美しさが人々の記憶に残ったといわれる夕霧太夫。彼女を題材とした作品が数多く作られました。代表的な作品だけでも以下があります。



金臺寺から浄國寺まで練り歩く夕霧太夫

近松門左衛門の人形浄瑠璃「夕霧阿波鳴渡」

江戸時代の浄瑠璃及び歌舞伎の作者である近松門左衛門も、夕霧太夫を題材とした作品を残しました。作中の「吉田の段」は改作「廓文章」の基となり、歌舞伎も上演されています。

井原西鶴の浮世草子「好色一代男」

浮世草子を確立させた元禄の文豪・井原西鶴の作品にも夕霧太夫は登場します。作中で「神代このかた、また類なき御傾城の鏡」と表現してされており、ここでも夕霧太夫の美しさが読みとれます。

夕霧太夫は、浄國寺にある墓所で眠っています。現在でも参拝する方が絶えません。亡くなった後、松尾芭蕉と並ぶ俳人・上島鬼貫が、1688年にこの墓に参拝した折に詠んだ句「此塚に柳なくともあわれ也」が墓碑として刻まれています。



「花祭り」夕霧太夫行列の予定

- 10:00 金臺寺本堂にて開式。
- 11:00 行列開始
(金臺寺本堂より境内へ移動)
本堂前で甘茶をかけて、
お稚児さんは献花を持ち、
行列の整列。
本堂前より太夫行列開始。
- 12:00～ →浄國寺にて灌仏会供養法要

お問い合わせ

浄國寺 TEL (06) **6771-1814**
<https://jyoukokuji.jp>

浄國寺 / 大阪市天王寺区下寺町1丁目 2-36
金臺寺 / 大阪市天王寺区下寺町1丁目 3-88

主催：夕霧太夫行列 実行委員会
後援：天王寺区役所／大阪市社会福祉協議会
シェラトン都ホテル大阪(予定)
朝日新聞社寺社文化財みらいセンター(予定)
森川商店

当日はお祭りのため、お寺に駐車場はございません
お車でのご来場はご遠慮下さい。